

東区高校生ビブリオバトル 2014

開催されました！

8月9日、東区の市民ギャラリー矢田で、東区の高校对抗で行われる「東区高校生ビブリオバトル 2014」が開催されました。

旭丘・至学館・東海・名古屋・明和の5高校の代表によるバトルの結果、参加者の投票で、旭丘高校の永田清かさんが紹介した「ブシュケの涙」がチャンプ本に選ばれました。おめでとうございます！



【編集後記】△本の大好きなカンガルーの「ヨンデルー」が11月開催の「ゆるキャラグランプリ」に登場します！応援よろしくです～(*^)(千雪)▼マンションの廊下でカブトムシを発見！すかさず捕獲しました。今はふたりで仲良く暮らしています。(苔)△ライブでうん十年ぶりに日本ガイシホールに行きました。(前に行ったときは「レインボーホール」だったなあ)アリーナ席って、いいですよえ。ライブも最高でした。(sh)



ゆるキャラ®グランプリ参戦！

投票期間：9月2日(火)～10月20日(月)

投票は「ゆるキャラグランプリ公式サイト」から
<http://www.yurugp.jp> エントリーNo.98

ごちやうと

ティーンズ広報紙 第35号

2014年9月1日発行

発行：名古屋市鶴舞中央図書館

Tel 052-741-9811

Fax 052-733-6337

<http://www.library.city.nagoya.jp/>

～読書でふくらむ子どもの夢～



特集「分厚い本を読んでみる」

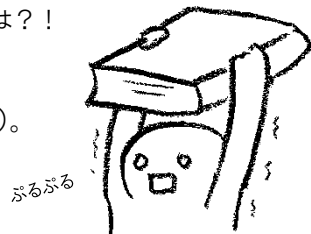
特集1 分厚い本を読んでみる。

秋といえば、そして図書館といえば、ずばり、読書しかありません。

ということで挑戦してみました分厚い本！果たして結果は？！

👉ルール 1: 500ページ以上の本を読むこと(分冊可)。

👉ルール 2: 期間は1か月とする。



挑戦者 No.1: sh



選んだ本: 『世界大博物図鑑』 全5巻+別巻2巻
(荒俣宏/著)平凡社

総ページ数: 2370+別巻1025ページ

あらずじ: 古代から現代にいたるまでの生物を、名前の由来・発見史・絶滅記録から神話・伝説・ことわざ、そして美術や文学にいたるまで解説。
18~19世紀のヨーロッパで作られた博物画を併せてふんだんに収録。

結果: 完読ならず(第3巻まで)

感想(言い訳):

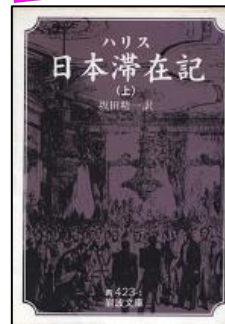
荒俣氏の著書は昔から好きだったが、これはさすがに通して読んだことはなかった。しかしこれを期に...と思ってトライしてみたが、やはりボリュームに圧倒されてしまった。しかし驚くのはその内容の多岐さである。この第1巻、虫類の最初に出てくるのが「**腹の虫**」なのである。(そして虫の解説から虫下しまで話は広がる)そしてバツの欄には「**仮面ライダー**」が登場したりする...。読んでいだけで(ただ、その読み通すのが一苦勞でね...)知識が広がっていくのを実感できる。

↓
『世界大博物誌』第1巻
をつかんでみた
ひょえー分厚い~



挑戦者 No.2: 苔

選んだ本: 『ハリス日本滞在記』 上・中・下
(ハリス/著)岩波書店



総ページ数: 876ページ

あらずじ: いわゆる不平等条約として日本史の授業に必ず登場する日米修好通商条約。その締結に力を尽くしたタウゼント・ハリスが、日本に滞在していた際の日記(のはず)。

結果: 完読ならず

感想(言い訳): 他人の日記を読むのは『はれときどきぶた』以来。当然というかやっぱりというか、ぶたが空から降ってくるようなおもしろいことは特に起こらず、読書ペースは始終のろのろのまま。その上、日本滞在記であるにも関わらずハリスさんがなかなか日本に向かわなかったのが追い打ちとなり、ついに**日本に到着しないまま**しめきり日をむかえるという予想外の結果となった。

挑戦者 No.3: 千雪

選んだ本: 『日本美術全史』
(田中英道/[著])講談社



総ページ数: 579ページ

あらずじ: 縄文時代から現代まで、日本の美術作品を各時代の様式ごとにまとめて写真・図版入りで紹介。巻末に作者名および作品名から調べられる索引がある。

結果: 一夜漬け...でざっと読む(苦笑)

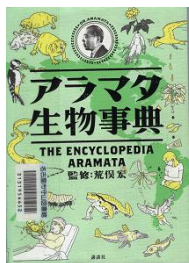
感想(言い訳): 美術は学生の頃からずっと苦手だったが、これを良い機会に苦手意識を克服しようと挑戦する。しかしなかなか表紙をめくることができず、結局期限ギリギリに一夜漬けで本を読むことに。それは、まるで学生時代の宿題のよう。細かく大量の文字に目が回りそうになるが、時折現れる**仏像の写真に癒される**。しかし、美しい仏像も絵画もすべて白黒だったのが残念(涙)本来の目的である「美術の克服」は...まあ、一冊読んだだけで苦手なものを直すのは難しいものですね(笑)

特集2 分厚くないけどおもしろい。

分厚いばかりが本じゃない！（←負け惜しみ）

前ページの本にちなんだ、そんなに分厚くない本を紹介します。

●『世界大博物図鑑』はムリ！と思ったら…



『アラマタ生物事典』 荒俣宏／監修 講談社

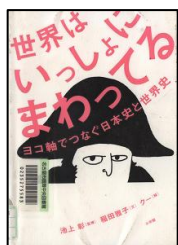
江戸時代に栄えていた、ありとあらゆるものの効能を探る「本草学」。この本は、その本草学の精神で書かれた生物事典である。宮殿の設計に役立った植物とは？ウジ虫が医療に役立っている？読めば「へえ～」の連続。



『知の分類史』 久我勝利／著 中央公論新社

古来、人々はどのように森羅万象の知を分類・体系化してきたのか？博物学・百科事典・図書館の分類の3つの観点から、知の歴史をたどる。

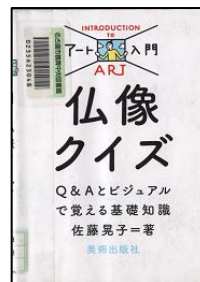
●『ハリス日本滞在記』はムリ！と思ったら…



『世界は いっしょにまわってる』 稲田雅子／文 小学館

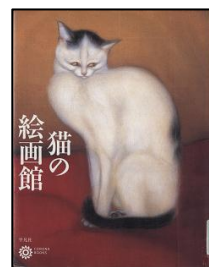
ペリーさんが浦賀に来航したころ、アメリカではジーンズが発売されてたって知ってた？日本史／世界史とふだんは区別して学ぶ歴史も、こうして見るとまた新鮮。世界の国々がぐっと身近に感じられるよ。

●『日本美術全史』はムリ！と思ったら…



『仏像クイズ』 佐藤晃子／著 美術出版社

日本の仏像の特徴や知識について簡単なクイズ形式で紹介。カラーの写真も多く、興味を持った仏像をパラパラと読んでも楽しい。「仏像問診票」では、仏像の特徴を選ぶだけで種類を簡単に見分けることができ便利。



『猫の絵画館』 コロナ・ブックス編集部／編 平凡社

錦絵で美人にかわいがられる猫から妖怪になって歌舞伎役者と戦う猫まで、いつの時代も猫は人気者。円山応挙、歌川国芳、速水御舟など『日本美術全史』にも登場する画家たちの作品も収録されている。



『一日江戸人』 杉浦日向子／著 新潮社

江戸っ子たちはどんな暮らしをしていたの？庶民のほとんどがフリーターだった？風呂が好きすぎて一日に4、5回も入っていた？モテるために男子がやっていたことって？…昔も今も日本人ってあんまり変わってないかも。

新刊紹介

『おかんメール』

『おかんメール』制作委員会／編 扶桑社

日本中のお母さんが、子どもたちへと宛てたメールを厳選して紹介しています。思わずニヤリしてしまうメールや大爆笑もの、心温まるものなど。こんなメール送ってほしい？来たら悩んじゃう？

さあ、わたしも送ってみよう！返信まってるよ〜！（Ra）



今号から、名古屋市各図書館のティーンズ担当さんが新刊を紹介してくれるよ！
「ぶちゃっ」とメンバーとはひと味違うチョイス&文章をお楽しみあれ♪

『コウモリの謎』

大沢啓子・大沢夕志／著 誠文堂新光社

哺乳類なのに空を飛び、住みかには洞窟、超音波を武器にして獲物を襲い、生き血を吸う。物語の中では卑怯者と言われたり、ドラキュラの化身だったり。コウモリってなんだが怖い、アヤシゲな存在ですよね。この本を読むとコウモリの意外な一面がわかって、ちょっと誤解が解けるかも。(bi)



『平安女子の楽しい！生活』

川村裕子／著 岩波書店

私たちの大先輩である千年前の女子&男子たち。彼らのおしゃれテクニックや恋バナ、占いや進路の悩みなどをたくさんのお挿絵とともに読んでみましょう。平安女子たちのきらきらハートを感じることができます。

古典の授業が楽しくなることうけあいます。(Ra)



『死神うどんカフェ1号店 1杯目』

石川宏千花／〔著〕 講談社

「死神うどんカフェ1号店」…がまたまうどんとカフェオレしかメニューにないその店は、突然、希子の前に現れた。そこには一風変わった店長と店員たち（実は元死神と現死神）や、しゃべるペンギン、そして重体で眠り続けているはずの希子のクラスメイトの姿があった。(bi)



『夏の朝』

本田昌子／著 福音館書店

夏休みに祖父の法要にやってきた莉子は、しばらくその家に泊まることに。毎朝庭の蓮池の前で花が開くの待つうち、過去へとタイムスリップする。少しづつ時代をさかのぼり祖父に会った莉子は、蓮にこめられた想いを知っていく。

(み)



『メランコリー・サガ』

ひこ・田中／作 福音館書店

私の名前はコトノハ。一学年1クラスしかない小学校で、どこのグループにも属さない私、パル、700の3人は一緒にいることが多い。パルが父親からレトロなゲームソフトをもらい、生まれる前のゲーム機を探すことに。父からファミコンを借り謎のソフトを起動させるとできたゲーム名は「メランコリー・サガ」(み)

